

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団 洛和会	代表者	矢野 一郎	法人・ 事業所 の特徴	同会においては市内で5番目、平成26年4月にここ竹田・住吉学区で初めて小規模多機能サービスとして設立。「施設に頼りにされる施設」をモットーに日々取り組んでおります。定例の行事を開催し、ご利用者様に楽しんで頂けるよう取り組んでいます。
事業所名	洛和小規模多機能 サービス伏見竹田	管理者	宇野 友浩		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	人	2人	人	3人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	1人1人が意見を出し合える、発言がしやすい環境を作る。また分からないことなど聞きやすい環境を作る。	朝と夕方の申し送りや、月に2回開催されるミーティングを利用して、利用者の情報や業務改善策などの話し合いを行っている。	職員間で情報共有ができています。また評価内容について、介護経験や、設問の理解度によってばらつきがある。	身体拘束・虐待に関する研修参加や職員個人が気付けるシステム、また他職員からの指摘が言いやすい職場環境を作る。
B. 事業所のしつらえ・環境	イベントなどで来られた時やお話に来られた時などに気持ちよく過ごして頂ける環境を作る。	コロナ禍の影響があり、外部関係者の施設内への立ち入り制限があった。感染症予防の対策として環境整備を行って対応している。	現在、施設内の立ち入り制限があり、立ち寄ることができないが、感染症予防を重視されている。	現状で開催が出来る行事やイベントを取り入れ利用者処遇の改善を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	吹き矢やカフェを通して地域の方にも気軽に声をかけてもらったり来て頂いたりしている。今後は地域の方からの相談など気軽に話をしてもらえよう関係性を作ることが必要。	今年度、定例になっていた吹き矢やカフェは中止となり、来所して頂くことができなかった。外部の居宅関係者とは訪問の際に情報提供を行っている。	コロナ禍の影響で吹き矢やカフェが開催できない状況であった。近隣の住民で相談や報告が必要な方がおられた場合は、地域包括へも相談して下さい。	コロナ禍であり、外部との関わりが難しい。今後は地域との関わり方法や相談などが気軽に行えるような関係性を作る必要がある。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の方に来てもらうばかりではなくご利用者にも地域で過ごして頂くうえで散歩などでもいいので地域に出る機会を作る。	外出行事の開催が出来なかった。施設の敷地内での体操や日光浴などを行い、外部の空気に触れて頂いている。	外出行事の開催が難しくなっている現状。地域のイベントの自粛もありなかなか難しいと思う。	地域で過ごしているうえで散歩に出かける機会を作る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	事業所のことだけでなく地域の心配事などを気軽に話し合える場所を作る。管理者以外の職員も参加する。	運営推進会議自体、参加者が集まって開催ができなかった。電話連絡での対応で情報提供、情報収集を行い対応している。	事業所の取り組み内容は分かる。電話での、情報提供を行っていた。	運営推進会議が開催出来る工夫を行い、地域としての役割を目指す。また管理者以外の参加にも配慮する。

F. 事業所の 防災・災害対策	地域の防災訓練に参加し、事業所 も含め地域の防災意識を高める。	施設内における非常災害時発生 を想定した訓練は定期的に行え ている。地域の防災訓練には参加 ができなかった。	非常災害時の地域の協力は重要 である。できる限り地域防災訓練 に参加して、職員の防災意識向上 を図るのはいかがでしょうか。	地域の社会資源の施設として地 域の防災訓練に参加することで、 非常災害時には協力し合える関 係性を深める。
--------------------	------------------------------------	---	--	--